

12月25～26日、市教組青年部は、「長崎平和教育フィールドワーク」(以下、フィールドワークはFWと表記します)を実施しました。原爆投下・戦後80年の節目を前に、過去の悲惨な歴史を二度と繰り返さないために、青年部が平和教育の取り組みとして長崎へのFWを企画しました。

1日目は長崎原爆資料館を見学、2日目は長崎平和公園や城山小学校平和祈念館などへのFWを行い、平和の大切さを改めて実感しました。

以下に参加者からの感想を掲載します。(紙面の都合上、若干、編集させていただいていることをご了承ください。)



長崎原爆資料館前にて

以前から、市教組や修学旅行等の実践を通して平和学習を行う中で広島についての学びは深まる一方で長崎はどうだったのか?という気持ちが高まっていました。今回、実際に行かせていただき学びを深めることができました。

資料館の見学を行った時、原爆による犠牲について長崎の地形や歴史的な背景など広島の資料館とは違ったものを感じました。その中でも、心に残ったのは外国の科学者が核爆弾による攻撃を反対していたということです。

原爆が落とされても落とされていなくても日本は降伏するだろうと発言する中においても原爆が投下された。しかし、被害を受け続ける人たちのことを思って反対した人たちがいたという事を知りました。

一部の人のために多くの人々が被害にあう戦争は2度と起こしてはいけないし、なくなって欲しいと思いました。貴重な機会をいただきありがとうございました。(TG)

私は、初めて長崎を訪れました。広島に原爆が投下された8月6日のことは、テレビ番組で報道されたり、ドラマで再現されたりしていることが多いけれど、長崎の8月9日については、少ないと感じていました。前回、広島の平和教育FWに参加し、長崎の平和教育も勉強したいと思っていたところ、今回の平和教育FWがあることを知り、参加させていただきました。

原爆資料館を見学する際、広島と長崎を比べていました。共通点は、原子爆弾が落とされた時刻が示された時計や原子爆弾の威力がわかる展示物、炭となったお弁当や衣服、生存者が原子爆弾によって受けた傷の写真でした。相違点は、浦上天主堂の惨状をあらわす壁とマリア像を筆頭に、被爆したロザリオが多く展示されていました。8月9日の投下後をあらわす壁画にもロザリオを首から下げているキリシタンも描かれていました。ここから、長崎はキリシタンが多く住む街と分かるとともに、豊臣秀吉の時代から幕末までキリシタンが迫害されていたことも想起されて、私は悲しくなり、マリア像の前からしばらく動けませんでした。また、長崎の資料館は、アメリカ側が原子爆弾を積んでいる映像や原子爆弾の構造、威力の解説も多く、そこから最後の展示ゾーンでは、「核兵器のない世界を目指して」というテーマで、反核運動を世界へ訴えていました。長崎の街の看板にも「長崎を最後の被爆地へ」とかかれたものがありました。現代も世界では



現地ガイドの方から丁寧に説明していただきました

核兵器開発を行っており、開発技術も79年前と比べ、格段に上がっているとかかれていました。この核兵器が人類に使われないように、後世の私たちが核兵器の恐ろしさや反核を訴え、伝えることが大切だと思いました。(OG)

### 末次平蔵宅跡

1614年、禁教令によってサント・ドミンゴ教会が破壊された後、250年にわたり長崎代官屋敷として使われました



平和学習では、ナガサキ、ヒロシマ、オキナワについてとりあげることが多いので、市教組でこれらの場所に行き、学んで感じて考える機会をいただけたことをありがたく思っています。

私は沖縄県出身なので、子どものころから、戦争についての授業を受ける機会が多かったのですが、そのたびに、「あの悲惨な話を聞くのは怖いな」と感じていました。現在の生活からは想像できず、正直、気持ちがしずんでしまうこともありました。自分が子どもたちに伝える立場になった今も、迷いが多々あります。

今回の研修で、子どもたちに、「怖い」以外の何かを伝える方法を探したいと思って参加しました。でも、実際にその土地を訪れ、当時のことを想像すると、やはり怖いと感じました。だけど、目をそむけるわけにはいきません。私たちの立場でできることは、事実を知り、「怖い」を知った上で、二度とその歴史を繰り返さないよう行動できる子どもたちを育てることです。

新学期、子どもたちに、「長崎で平和学習した」と伝えると、「あの爆弾のどこやね。怖い写真とかあった?」ときかれました。今後、どんな実践をしようかと考えているところです。

(KN)

【裏面に続く】

大阪から行こうと思うと広島より遠く、なかなか訪れることができない長崎。今回、市教組で学習会として長崎への平和学習ができる機会を作っていただけて本当にありがたいです。その土地ならではの歴史的背景や、原爆での被害だけでなくたくさんの学ぶ教材があるなかで、ともに学び合える仲間と一緒に資料館を訪れたり、FWで歴史を感じたりすることができるのは本当に貴重な時間でした。

以前に長崎へ訪れたときから情勢が変化し、より世界が戦争に対しての緊張状態にあるなかでの被爆地での学びや、大阪にもつながりがあった長崎の部落のFW。情報量が多すぎてなかなかうまく言葉ではまとめきることが難しいと感じます。学ぶ姿勢を絶やさず、自分が得た知識や感じたことを、現場に戻って子どもたちへ伝えていくことの大切さを、みんなで共感できるのも、市教組の仲間と行くこの学習会の良いところだなと思いました。

(TS)

長崎は原水禁大会に参加して以来、もうずいぶん経ったと思います。その当時のことを思い出しながらFWをすることによって振り返り、またそれが新しい学びにつながるものが、何度か行くことの大切さなのかなとあらためて感じたFWでした。

特に今回は感慨深いものがありました。昨年秋にはノーベル平和賞を被団協が受賞しました。

また、昨年春には、東住吉在住で長崎で被爆された山科和子さんが亡くなりました。反戦平和学習の取り組みではとてもお世話になった方です。山科さんについては平和祈念館に山科さんの追悼集が置かれていました。場所がわからなかったのが係の方に聞くとすぐに説明してくれました、大切に保管させているのだとうれしく思いました。

ヒロシマやナガサキと当時の様子を学ぶと同時に今の様子を見ると、原爆投下後に人が住めるようになったのだと生きていく力強さを感じます。だからこそ、二度と同じことを起こしてはいけないということを考えさせられました。

子どもたちに伝えていきたいというのはもちろんですが、そのことに大人同士が話できる関係をどれだけ築いていけるのか考えていきたいです。(TB)



平和祈念像

制作者・北村西望による「平和祈念像作者の言葉」の碑文の一節には「右手は原爆を示し左手は平和を顔は戦争犠牲者の冥福を祈る」とあります



日本二十六聖人

1597年、豊臣秀吉のキリシタン禁教令により日本で初めて26人のキリシタンが処刑されました

前回の沖縄への平和教育FWに引き続き、今回、「長崎の歴史と文化を考えるFW」に参加させて頂きました。

長崎は、教員になって間もない頃、友人と観光で行きました。その時にも、原爆資料館と平和公園に行きましたが、当時は知識も全くなく「戦争は恐ろしいものだ。」というぐらいの感想でした。

その後、広島、沖縄に足を運んだり、子どもたちとともに平和学習をしたりして、様々なことを学びました。そして、時を経て再び長崎を訪れた今回は、今までとはまた違った気づきがありました。

1日目は平和学習を行いました。原爆資料館は、広島とは展示の仕方が異なり、原子爆弾の構造が詳しく説明されていたり、教会の像が生々しく崩れて残っていたりしていたのが印象的でした。そして、平和公園の祈念像を見た時、いろいろな疑問が湧きました。どうして、男性なのか、このポーズにはどのような意味があるのか…帰宅してからすぐに調べ、意味を知ることができました。戦争は、どこの国でも、絶対にして欲しくないと思えました。

2日目は、1日目とは違う視点でFWを行いました。長崎の部落について、長崎人権研究所の方に案内して頂きました。坂道を昇ったり降りたりとたくさん歩きましたが、革製品を作る町があり、様々な理由でやむを得ず集落を移動させないといけなかったことなど、案内して頂かないと分からなかったことを知ることができました。

今回参加して、自分の足でその場に赴き、「見て、聞いて、調べて」学ぶことで、より身近に感じ、自分のこととして考えることができました。学んだことを、これからも子どもたちに伝えていきたいです。とても充実した2日間でした。(KM)



浦上天主堂にて